

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会

目 次

佐世保市社会福祉協議会事業報告	P
組織体制	・ ・ ・ ・ ・ 1
事業概要	・ ・ ・ ・ ・ 2
地域福祉推進事業	・ ・ ・ ・ ・ 3
【施設事業報告】	
介護事業所	・ ・ ・ ・ ・ 16
勝富授産場	・ ・ ・ ・ ・ 18
須佐保育園	・ ・ ・ ・ ・ 19
吉井北保育園	・ ・ ・ ・ ・ 21
児童センター	・ ・ ・ ・ ・ 23
老人福祉センターやすらぎ荘	・ ・ ・ ・ ・ 26
老人福祉センターあたご荘	・ ・ ・ ・ ・ 28
宇久高齢者生活福祉センター慈恵苑	・ ・ ・ ・ ・ 30
江迎高齢者生活福祉センター槇の木庵	・ ・ ・ ・ ・ 31
宇久地域包括支援センター	・ ・ ・ ・ ・ 32

組織体制

施設・事業所名		住所	職員数
本所	法人運営課 地域福祉課 総合相談支援課	八幡町 6-1	70名
ボランティアセンター		戸尾町 5-1	3名
在宅介護課		八幡町 6-1	5名
佐世保介護事業所		八幡町 6-1	26名
吉井介護事業所		吉井町橋川内 570-4	58名
世知原介護事業所		世知原町栗迎 83-5	16名
宇久介護事業所		宇久町平 1904-1	35名
小佐々介護事業所		小佐々町楠泊 1530-3	43名
江迎介護事業所		江迎町赤坂 282-24	29名
鹿町介護事業所		鹿町町深江 550-3	14名
勝富授産場		勝富町 2-17	6名
須佐保育園		須佐町 1-9	21名
吉井北保育園		吉井町直谷 1065-1	20名
大野児童センター		田原町 8-37	5名
相浦児童センター		相浦町 357	5名
春日児童センター		春日町 18-9	5名
山澄児童センター		潮見町 14-14	6名
宇久児童センター		宇久町平 1910-1	5名
稲荷児童センター		稲荷町 2-5	5名
黒髪児童センター		黒髪町 52-5	8名
早岐児童センター		花高 1 丁目 6-45	5名
広田児童センター		重尾町 63	5名
老人福祉センターやすらぎ荘		花園町 10-35	5名
老人福祉センターあたご荘		中里町 9-2	6名
高齢者生活福祉センター慈恵苑		宇久町平 1911-1	5名
高齢者生活福祉センター槇の木庵		江迎町赤坂 282-24	2名
宇久地域包括支援センター		宇久町平 2578	4名

合計 417名

事業報告

事業概要

新型コロナウイルス感染症によって令和3年度においても事業計画の変更やイベントの中止などが発生し、地域福祉の推進に大きな影響を及ぼした。そのような状況ではあったが、市民一人ひとりが「心豊かに安心して暮らせるふくしのまち」の実現に向け、職員一丸となって各種事業を推進した。

地域福祉事業においては、各地区のサロン活動や会食を伴う食事サービスなどは中止せざるを得ない状況は続いたが、会議などは可能な限りオンライン会議形式による実施方法に変更し開催を目指した。企業との連携については、前年に米を寄贈いただいたJAながさき西海から今年も米の寄贈を受け、児童養護施設や留学生、困窮世帯などを支援した。生活支援体制整備事業においては、生活支援グループの立ち上げを支援し、買い物支援や生活支援を各地域に広げることにつながった。特に、吉井町や世知原町では、継続性を考慮した有償による支え合い活動も始まった。ふくし教育においては、学校のみならず企業に対しても災害時への備えなどの実践プログラムを実施した。

災害ボランティアセンターの運営においては、災害時のボランティア活動を円滑に行うために、ライオンズクラブ国際協会337-C地区との応援協定を締結した。また、長崎国際大学とは、地域福祉をさらに発展させるための連携協定を締結し、福祉人材の育成や、知的、人的資源の活用など、今後の地域福祉の基盤づくりを行なった。

なお、令和元年から進めてきた、地区自治協議会と地区福祉推進協議会との「再編・合流」については、佐世保市が新たに設置した「佐世保市地域運営研究会」において、一つの組織にまとまる、いわゆる「再編・合流」にこだわることなく、地域の実情に合った連携を検討していくとの整理が示された。

一方、生活面においては、生活福祉資金等の貸付額が増加するなど、新型コロナウイルス感染症の影響で生活が困窮する状況も続いている。

各施設事業においても新型コロナ感染症の影響は顕著で、介護保険事業においては利用時間の短縮や利用人員の制限等により事業収入が減少し、老人福祉センター事業、児童センター事業、及び保育園事業においては、感染防止対策としての施設の閉鎖（園）も行なった。

このような中、江迎鹿町支所・介護事業所が完成し、新しい施設での介護事業等が始まり、また老人福祉センターにおいては、健康増進に重点を移した新たなサービスに取り組むと共に、送迎バスの利便性向上対策などにより利用者の増加対策に着手した。また、令和3年で受託期間が終了した児童センター事業の受託期間については、令和4年度から3年間延長された。

地域福祉推進事業報告

1 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり（様々な課題に対応した相談体制・連携の充実）

（1）課題を解決するための体制づくりと活動の促進

①地域福祉を推進する組織の基盤強化と活動支援

○地区福祉推進協議会・地区自治協議会福祉関係部会（福推協等）との連携・支援

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、小地域での様々な地域福祉活動が自粛や中止となり、本会が計画していた事業をはじめ、各地区福推協等において計画されていた事業やサロン活動等においても、計画の変更や縮小して取り組むことになった。

また、福推協等会長連絡会においても、ブロック単位の開催をはじめ、オンライン会議形式を取り入れるなど工夫をして開催した。

また、佐世保市と本会とで進めていた地区自治協議会と地区福祉推進協議会との再編合流については、佐世保市において地域運営等のあり方について考える「佐世保市地域運営研究会」が設置され、各種団体と地区自治協議会の連結について検討された結果、これまでの「再編合流」によって一つの組織にまとまる形態だけではなく、それぞれの地域の実情に合った方法で連携していけるのであれば、一つの組織にまとまる以外の方法でもよいものと整理された。

《福推協等会長連絡会》

第1回 令和3年6月（書面開催）

- ・福推協等会長連絡会役員の選任について、令和3年度事業計画について他

第2回 令和3年12月14日～15日（ブロック開催）

- ・地区自治協議会と地区福祉推進協議会との再編合流について、地域主体による新たな生活支援サービスへの支援について他

第3回 令和4年3月7日（ブロック開催・オンライン会議）

- ・「地域福祉課題解決に向けた住民参画の地域づくり」について（中津市社会福祉協議会からのオンラインによる講話）、令和4年度事業計画について他

《福推協等会長連絡会先進地視察研修会》

大分県中津市社会福祉協議会への視察研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。そのため、第3回福推協等会長連絡会において、オンラインによる研修会を開催した。

《福推協等構成員ブロック別研修会》

令和4年3月に市内6ブロックで開催を計画していた研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため中止した。

○33地区福推協等の活動費の一部を助成

福推協等組織の強化と円滑な運営及び地域福祉活動を推進するために活動費の一部を助成した。

また、令和3年11月に地域ふれあい推進事業補助金の要綱を一部改正し、住民同士の支え合い活動及びボランティアによる生活支援サービス等に対する立ち上げ費

用の一部を助成した。

- ・ 社協会費還元金（地区の30%）、共同募金配分金（地区の5%） 2,411,000 円
- ・ 福推協「地域ふれあい推進事業」補助金 10 地区福推協等 398,000 円

②多機関協働による地域の相談支援体制の構築

地域の課題や地域の実践活動に関する情報の共有を図るとともに、課題の解決に向けた取り組みを検討するために、地域で実働する専門機関や専門職による「地域福祉・生活支援ネットワーク会議（第1層協議体）」を開催した（第1層生活支援コーディネーターと連携し取り組んだ）。

第1回 令和3年9月3日（書面開催）

- ・ 新型コロナウイルス感染症にかかる「ボランティア活動団体応援プロジェクト」取り組み報告他

第2回 令和4年3月2日（オンライン会議）

- ・ 「坂の街で暮らす」をテーマに、斜面地居住に関する課題について説明及び報告、意見交換を行った。

③身近に相談できる体制づくり（地域カフェの設置に向けた検討）

世代を問わず、地域住民の誰もが、いつでも、気軽に立ち寄れる「場」としての「地域カフェ」の設置に向けて、地区コミュニティセンターを想定した協議・調整を行ったが、新型コロナウイルス感染予防のため進展させることができなかった。

（2）情報発信力の強化

①福祉サービス利用者の選択に役立つ情報提供

○社会資源情報の収集整備（くらしに役立つ福祉情報ガイド）

ホームページ上に掲載している、佐世保市の福祉に関する相談窓口や各種福祉サービスに関する情報、NPO・市民活動団体等の情報を随時更新するとともに、新たな情報を掲載し、市民への福祉に関する情報提供に努めた。

※フォーマルサービス 187 件、インフォーマルサービス 130 団体の情報を掲載
アクセス件数 12,880 件

2 地域における福祉活動の充実と人材育成（様々な課題を解決できる地域力の強化）

（1）住民による自発的な地域活動の推進

①ふれあいいいききサロンの支援・推進

○ふれあいいいききサロン情報交換会の実施

サロン代表者やボランティア、福推協等会長を対象に、「スマートフォンを活用したつながりづくり」をテーマにした講座を計画したが、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

○ふれあいいいききサロンの開設の推進

福推協等会長連絡会、地区総会、地区民児協定例会、町内役員会等でサロン活動の意義や必要性について、事例をもとに説明し開設をはたらきかけた。また、サロン開設に向けたプログラムの内容や年間計画の作成支援をはじめ、地域ふれあい推進事業補助金による活動費の支援を行った。

- ・サロン数 265 カ所 新規開設 2 カ所
- ・活動費の支援 8 地区福推協 活動費補助 178,000 円
- ※運営費補助（1 回 1,000 円、年間 12,000 円上限）

○ふれあいいきいきサロン・自主活動グループへの支援

既存のいきいきサロン及び自主活動グループに対し、職員が訪問してレクリエーション等の実施や本会が所有する遊具の貸出を行った。

- ・職員訪問支援回数 284 回
- ・貸出遊具 58 種類

○「ふれあいいきいきサロン・バグー交流大会」の開催

令和3年10月に予選、令和3年11月に本選を計画をしていたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

○地域共生サロン（地域の居場所）づくり

子どもから高齢者まで、対象を定めず誰でも参加できる共生サロンの推進を図っているが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、活動を自粛や中止するサロンも多く、新たな開設につながらなかった。

②食を通した地域活動の支援

○食事サービスへの助成

一人暮らしの高齢者や障がい者、高齢者夫婦世帯等を対象に、会食型や配食型の食事サービスを各地区の町内婦人部や福推協等が行っていることにに対し、一食あたり260円を助成した。

- ・活動実績に応じた助成

25 グループ 延べ 3,627 食 助成金 943,020 円

○食事サービスグループリーダー研修等の開催

食事サービスボランティアの活動に必要な知識向上のためのリーダー研修会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。なお、料理教室に代わる取り組みとして「応援レシピ集」を作成し、各食事サービスグループに配付した。

○食材提供企業との連絡調整等

子ども食堂などの地域活動を支援するため、市民や企業への広報、食材提供企業との連絡調整を実施した。JAながさき西海からは、昨年度の約2倍となる2,300kgの米の寄贈を受け、市内の子ども食堂や児童養護施設、生活に困窮している世帯、市内大学等の留学生へ配付した。

③コミュニティビジネスに関する研究

地域住民が主体となり、地域課題の解決のために取り組まれる地域に根差した事業活動（コミュニティビジネス）に関する全国各地の情報収集を行った。なお、新型コロナウイルス感染予防のため、先進地視察は中止した。

④ふれあいネットワーク支援事業

要援護高齢者及び障がい者等に対して、近隣の住民を中心としたネットワーク化を図り、その構成員が対象者を訪問し、安否確認や日常生活を支援することにより安心して生活できる環境を整え、住民へのボランティア意識の高揚と育成を図った。

- ・対象者 583 ネット
- ・構成員 1,898 名
- ※令和4年3月末現在

⑤生活支援体制整備事業（市委託）

地域包括ケアシステムの構築に向けた、生活支援・介護予防の充実を推進することを目的として10地区（中里皆瀬・北・吉井・世知原・江迎・鹿町・小佐々・宇久・早岐・黒島）で受託している生活支援体制整備事業において、次のとおり取り組みを実施した。

- ・地区内における課題収集及びニーズ把握（アンケート調査など）
- ・生活支援体制整備事業における協議体（支え合い推進会議）の開催
- ・生活支援サポーター養成講座の実施
- ・生活支援サービスグループ等の立ち上げ支援

中里皆瀬地区：買い物行こう会、買い物サロン

吉井地区：おもやいネットよしい 世知原地区：ささえ愛たい世知原

小佐々地区：こさざ・すまいる会 鹿町地区：さわやか鹿町

- ・その他、広報活動（広報紙の発行、ブログ・ホームページ掲載）など

（2）ボランティア・市民活動の推進（させば市民活動交流プラザ内）

①ボランティアセンターの運営

市民のボランティア・NPO・市民活動への参加を広く呼びかけるとともに、活動が浸透するための事業や支援をしていくことで、市民のボランティアに対する理解、参加を促進し、地域の活性化につなげた。

- ・ボランティア登録 個人 300 名、団体 47 グループ（2,907 名）
- ・ボランティアセンター別館研修室の貸出 延べ利用者数 1,540 名（8 団体）

②ボランティア活動の支援

○ボランティアグループへの研修費補助

登録ボランティアグループ（登録 1 年以上）が実施する自主研修や、外部研修会参加に要する経費の一部を助成した。

- ・7グループ 301,000 円

○ボランティア入門講座の開催

令和3年6月26日 新型コロナウイルス感染予防のため中止

令和3年10月16日 参加者6名

○ボランティア実践講座等の開催

令和3年7月21日 「地域の防災活動について」

※新型コロナウイルス感染予防のため中止

令和3年11月25日 「車の使い方を学んでみよう」 参加者7名

令和4年3月17日 「介護保険制度について学んでみよう」 参加者16名

○ボランティア出前講座の開催

令和3年8月5日 長崎県すこやか長寿大学校「第8期シニアいきいきカレッジ」

※新型コロナウイルス感染予防のため中止

○ボランティア活動保険加入促進

ボランティア活動者が、より安心して活動に取り組むための環境整備を目的に、活動中の事故を補償する「ボランティア活動保険」への加入を促進した。

- ・加入者数 2,074 名

③災害ボランティアネットワークの推進

○災害ボランティアネットワーク連絡協議会

平常時から顔の見える関係を構築することを目的に、18機関・団体による「災害ボランティアネットワーク連絡協議会」の会議を開催した。なお、令和3年度から「日本防災士会長崎県支部」が新たに加入した。

第1回 令和3年7月5日（オンライン会議）

- ・令和2年度事業報告について、連絡協議会参加団体について他

第2回 令和3年11月1日（オンライン会議）

- ・令和3年8月の大雨災害の被害状況について
- ・講話 「災害時に備えた平常時の取り組み」

講師 日本防災士会長崎県支部 支部長 旭 芳郎 氏

第3回 令和4年3月11日（オンライン会議）

- ・講話 「災害時における初動の取り組みと社協間の連携について並びに災害ボランティアセンター運営に係る課題について」

講師 武雄市社会福祉協議会地域福祉係 係長 前田 幸児 氏

- ・令和4年度事業計画（案）について、平常時並びに災害発生時における各団体の取り組みについて

《先進地視察研修会》

視察研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。そのため、第3回会議において、オンラインによる研修会を開催した。

○長崎県災害ボランティア連絡会への参画

本会職員が会議に出席し、情報共有及び参加団体との繋がりづくりに努めた。

○災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定

災害ボランティアセンターの迅速かつ効果的な運営を図り、災害ボランティア活動を円滑に行うため、「ライオンズクラブ国際協会337-C 地区」との協定締結に向けた協議を進めた。 ※令和4年4月8日に締結

④災害ボランティアセンター設置運営訓練及び研修会の実施

災害ボランティアセンターによる支援活動が円滑に実施できるよう設置運営訓練を計画し、また市民の災害ボランティアに関する意識の向上を目的とした研修会を実施した。

○佐世保市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練

令和3年9月1日 新型コロナウイルス感染症の感染予防のため中止

○災害ボランティア研修会の実施 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施

令和3年12月3日 講演 「災害発生時における、避難行動について」

～地域防災の大切さと、災害ボランティア活動～

講師 長崎県社会福祉協議会事務局次長 甲能 邦浩 氏
大村市社会福祉協議会地域支援班副班長 木谷 亘 氏
参加者 72 名（来場 46 名、オンライン 26 名）

○災害時対応マニュアルの改訂

災害時において本会職員及び組織として迅速に対応するために必要な初動体制の確立、本会職員の防災意識の向上につなげるために策定しているマニュアルについて、災害警戒レベルの表示変更や組織改編に伴い改訂した。

（３）共に生きる地域づくりの推進

①ふくし教育の実践

○ふくし教育実践体制の基盤づくり等

地域住民を対象としたふくし教育の実践活動を広げるために、地域のいきいきサロン等において、防災に関する講座やコロナ禍における思いやり・つながりづくりをテーマにした講座を実施した。

○学校におけるふくし教育の推進

市内小中学校からの相談に応じ、プログラムの提案や講師の連絡調整等の支援を行い、児童・生徒の「共に生きる力」を育むふくし教育を推進した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底するため、体験活動や講師との交流などを工夫するとともに、オンライン方式による講話など新たな手法を取り入れた。

・小学校 20 校 ・中学校 2 校

○企業に向けたふくし教育の推進

企業におけるふくし教育を推進するため、企業の内部研修に活用できる「企業向けふくし教育実践プログラム集」を作成した。また、企業の社員研修において、「災害時における備えや行動について考える」をテーマとしたプログラムを実施した。

・ふくし教育実践企業数 1 社（株式会社 山縣）

○ふくし教育推進フォーラムの開催 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施

地域住民や学校関係者等のふくし教育への関心を高めることを目的に開催した。

令和3年12月10日 講演「ふくし教育への期待」

講師 鎮西学院大学 現代社会学部 教授 中野 伸彦氏

参加者 66 名（来場 47 名、オンライン 19 名）

○ふくし教育推進委員会の開催

ふくし教育の推進における今後の進め方に対する助言など必要な支援を受けることを目的として、13機関・団体で構成するふくし教育推進委員会を開催した。

第1回 令和3年7月15日（オンライン会議）

・令和2年度事業報告について、令和3年度事業計画について

第2回 令和4年3月3日（オンライン会議）

・企業向け実践プログラム集（案）について、令和3年度経過報告について

第1回小委員会 令和3年11月5日

・企業向け実践プログラム集（案）の掲載内容の検討

②地域福祉活動への意識啓発

○地域福祉講演会の開催 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施

市民をはじめ、保健・医療・福祉の分野における事業所や NPO など、様々な機関や団体の方々に地域福祉への理解と関心を深めてもらうことを目的に開催した。

令和3年 12 月2日 講演 「高齢者を取り巻く地域の支援体制づくりの現状と課題」

講師 長崎短期大学 地域共生学科 教授 藤島 法仁 氏

参加者 90 名（来場 65 名、オンライン 25 名）

3 自立した生活を支える福祉サービスの展開（様々なニーズに応じた福祉サービスの充実）

（1）生活支援・自立支援等の取り組み

①資金貸付事業

○長崎県生活福祉資金貸付事業

失業者世帯、低所得者世帯、高齢・障がい者世帯の経済的自立や生活意欲の助長を促し、安定した生活を営むことを目的に資金貸付けを行った。

新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少があった世帯に対し、下表のとおり緊急小口資金等特例貸付を行った。

○佐世保市福祉資金貸付事業

市内に1年以上居住し、生活が困窮な世帯で、生活再建に必要な融資を他から受けることが困難な世帯を対象に、無利子で小口資金の貸付けを行った。

種 別	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	実績額(円)	件数	実績額(円)	件数	実績額(円)
生活福祉資金	87	74,214,000	78	64,014,000	83	76,405,000
総合・緊急特例貸付	2	400,000	2,829	1,003,343,000	2,550	1,064,600,000
福祉資金(小口資金)	261	5,606,000	206	4,215,000	194	3,954,000
計	350	80,220,000	3,113	1,071,572,000	2,827	1,144,959,000

②日常生活自立支援事業（県社協委託）

判断能力が十分でないために、地域で自立した生活ができない方（認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等）を対象に、利用者との契約に基づき福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理の代行を行い、安心した生活ができるよう支援した。

・実利用者数 183 名（新規 24 名、解約 26 名）

③生活困窮者自立相談支援事業（市委託）

生活困窮者が経済的困窮状態や社会的孤立から脱却することを支援するため、相談窓口の設置、生活困窮者の把握、自立支援計画の作成、自立支援計画支援調整会議の開催などを行った。

・新規相談件数 1,681 件

〔対応内訳〕 情報提供など 482 件、他制度・他機関等へのつなぎ 920 件
本事業による継続支援 279 件

・自立支援計画作成件数 355 件 ※再支援計画作成を含む。

- ・支援調整会議開催回数 19回

④させば成年後見センターの運営事業

○させば成年後見センターの運営

認知高齢者、知的障がい、精神障がい等により判断能力が十分でない方に対し、家庭裁判所の選任により、本会が成年後見人等となり、成年被後見人等が安心して生活を継続できるよう福祉サービス利用の契約等の支援を行った。

- ・成年後見制度の実利用者数 16件（補助3、保佐5、後見8）

○成年後見制度促進事業（市委託）

成年後見制度の一層の利用促進を図ることを目的として、県社協主催後見支援員養成講座（市・社協共催）を実施、市民後見人養成講座修了者等を対象に担い手を活用するよう育成した。また、成年後見体制の充実のため成年後見制度申立ての支援を行った。

- ・県社協主催後見支援員養成講座修了者数 25名 うち新規登録者数 19名

- ・フォローアップ研修の実施

令和4年1月23日 参加人数 14名（養成講座修了）

- ・成年後見制度の申立て支援人数 29名

後見人等確定者数 9名 申立て準備中 2名

継続支援人数 14名 支援中止人数（死亡等）4名

4 自立支援・相互扶助・地域活動を実践するために必要な基盤整備

（1）地域福祉カルテの情報更新

福推協等を単位とする圏域において、基本情報（人口・高齢者人口他）、社会資源の状況、地理的特徴や交通・生活の利便性、地域の課題・特性などをまとめ、その地域に応じた既存の事業・活動の改善や新たなインフォーマルサービスなどを検討するための基礎資料として作成した地域福祉カルテの情報更新を行った。

（2）福祉人材バンク（県社協委託）

①福祉人材無料職業紹介事業

広域的な福祉人材確保対策の推進を図るため、求職者への就職斡旋及び相談受付を行いながら、地域住民や社会福祉施設・事業所が福祉人材バンクを積極的に活用できるよう広報・啓発を行った。

求人登録の手続きについて、長崎県福祉人材センターと一体的に実施するため代行登録からインターネット申請・登録への移行を実施した。

- ・求人登録件数 682件（延べ）
- ・求職登録者数 190名（延べ）

- ・ハローワーク佐世保との連携 新規5名の内就職者4名

- ・出張相談（ハローワーク佐世保・江迎） 32回（相談件数30件）

- ・広報、啓発活動 社協だより掲載、社協HP掲載、各関係先へチラシ送付

- ・他団体主催の就職セミナー、合同面談会へのブース出展

長崎国際大学、海上自衛隊地方総監部、オンラインながさき暮らし相談会、介護に関する入門的研修

②福祉・介護の就職合同面談会

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

③福祉・介護の職場ミニ説明会

中途採用者を中心とした求人に対し、福祉職場への就職を希望する一般の方を対象に開催した。参加者計 161 名

開催日	会 場
令和3年5月28日	広田地区コミュニティセンター
令和3年8月29日	早岐地区コミュニティセンター（WEB）
令和3年11月4日	ハローワーク佐世保
令和3年11月10日	ハローワーク江迎
令和3年11月15日	ハローワーク佐世保
令和3年11月18日	ハローワーク佐世保
令和3年12月9日	介護ロボット体験会及び福祉関係高校生向けミニ面談会
令和4年1月28日	川棚町公民館（ハイブリッド）
令和4年2月16日	ソレイユ吉井（ハイブリッド）
令和4年2月21日	相浦地区コミュニティセンター（ハイブリッド）

〔広報先〕

施設・事業所への開催案内、求職登録者への開催案内、県北地区学校、社協、関係機関への開催案内、「we1なが」HP掲載、本会HP掲載、ライフさせぼ掲載、長崎・西日本・読売新聞折込、商業施設等へのチラシ・ポスター設置、地域住民への広報（東彼3町、中里皆瀬地区）、パコラ掲載、はっぴい！FM出演、長崎新聞広告掲載

④マッチング機能強化事業

- ・県北地域の施設、学校等訪問 112回
- ・令和4年3月11日 遠隔地にある福祉関係高校生と福祉施設のリモート説明会
平戸高校7名、参加施設1カ所

5 広報啓発に関する事業

（1）社協だよりの発行

地域福祉を推進している各地区の福推協活動や、ボランティア活動及びその活動を支援している本会の取り組みを、市民に分かりやすく伝え、福祉意識の向上と地域福祉活動への理解と関心を深めることを目的に年3回発行した。

また、社協だよりの内容をCDに吹き込み、視覚障害者の方へ「声の社協だより」として配布するとともに、本会事務局及び老人福祉センター3カ所へサンプルCDを設置し、市民への周知を行った。

- ・社協だより 7月、10月、3月（各100,000部発行 全世帯配布）
- ・声の社協だより 発行ごとにCD30枚作成

(2)「地域福祉かわら版よもで」の発行

社協だよりを発行することができない時期のタイムリーな情報や、若い世代を含めた様々な世代が興味を持ち、地域福祉活動への理解を広げることを目的に年3回発行した。

・5月、9月、1月（各4,000部発行 地区コミュニティセンター、図書館、福祉施設・団体、各学校、ショッピングセンター等）

(3) ボランティア・NPO 関係広報紙「くれよん」の発行

市民にボランティア・NPO に関する様々な情報を提供し、活動への関心と理解を深め、活動参加へのきっかけになることを目的に年6回発行した。

・偶数月（各4,450部発行 個人ボランティア、ボランティアグループ、地区コミュニティセンター、図書館、福祉施設・団体、各学校、ショッピングセンター等）

(4) ホームページによる広報など

本会活動全般の紹介、また、地域福祉に関わる新しい情報の発信に努めた。また、マスコミ（新聞各社、佐世保市内のテレビ局、ラジオ局、タウン誌）に協力を依頼し、本会事業のPRに取り組んだ。

6 地域活動への支援や見舞金の配付などに関する事業

(1) 地域活動支援

①福祉団体の支援

地域で活動する福祉団体へ運営費・事業費を助成し、その運営を支援した。

- ・民生委員児童委員協議会連合会及び主任児童委員部会
- ・老人クラブ連合会 ・視覚障害者協会 ・肢体障害者協会
- ・ろうあ福祉協会 ・手をつなぐ育成会 ・母子寡婦福祉連合会
- ・佐世保市遺族会 ・佐世保市保育会 ・青少年健全育成会

②社会福祉センターの運営

地域で活動する団体（個人）等へ会議室の貸出を行った。

- ・佐世保市社会福祉センター ・宇久社会福祉センター

③赤い羽根子どもの遊び場の整備

「赤い羽根子どもの遊び場」に設置されている、遊具、フェンス等の安全及び環境維持のため、1か所の遊び場に整備費を助成した。

④遊具・福祉車両・機器の貸出

地域で行われる催し物やサロン活動を支援するため、歳末たすけあい募金の配分金により新たに遊具を購入するなど貸出し用の遊具、備品の充実を図った。

また、公共交通機関を利用しての外出が困難な障がい者や、高齢者の通院等のために、福祉車両や、車椅子、ポータブルトイレなど介護用具の貸出し、そのほか小・中学校での福祉体験学習用具の貸出しを行った。

- ・貸出件数：サロン遊具92件、車椅子161件、福祉車両16件、高齢者疑似体験セット10件、綿菓子機・ポップコーン機7件、その他13件

(2) 見舞金等配付事業

①災害罹災世帯への見舞金の支給

市内で発生した災害で被害を受けた被災者に対し見舞金及び弔慰金を支給した。

・火災見舞金 19 件（うち死亡弔慰金 1 件） ・水災見舞金 6 件

②福祉見舞金等の配付

歳末たすけあい募金の配分を受け、児童養護施設の入所児童等へ年末年始の生活支援のため見舞金を配付した。

また、市内の子ども食堂実施団体への支援を行った。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から個別対応を要する低所得世帯への見舞金は中止した。

区 分	配分額（円）	摘 要
児童養護施設入所者への見舞金事業	255,000	85 名
子ども食堂実施団体への助成	244,000	7 団体
生活困窮世帯支援事業	169,652	紙おむつ等整備
貸出用福祉機器の購入	416,656	サロン遊具、高齢者疑似体験セット他
事務諸費	150,000	
計	1,235,308	

③要援護世帯の小学校児童・中学校生徒への修学旅行費の助成

要保護・準要保護世帯の小学校児童及び中学校生徒へ修学旅行費（おこづかい）を助成した。

・小学校児童 372 名（@2,000） 中学校生徒 453 名（@3,500）

7 地域における公益的取り組み

(1) 外出支援サービスに係る事業

「地域における公益的取り組みを実施する責務」の一環として、外出困難な高齢者等の移動手段の確保とコミュニティ機能の強化を図ることを目的に、本会が運営する介護事業所の空き車両を市民活動団体等に貸出す「車両の貸出事業」を小佐々地区圏域において実施した。 ※令和2年10月開始

・活動団体 こさざ・すまいる会 25 名

・利用登録者 30 名

・活動実績 令和3年10月～12月 16回の運行で延べ61名が利用

※その他の期間は、新型コロナウイルス感染予防のため活動休止

8 その他の事業

(1) 安定した社協事業活動を支えるため、自主財源の確保に努めた。

特にホームページにおいて福祉協力店として団体・法人会員の紹介、また寄付者のお知らせを行い会員加入の促進と寄付協力者の増を図った。

○社協会員の確保

(単位：円)

種 別	口 数	令和3年度実績額	令和2年度実績額
一般会員	24,167	4,833,402	4,824,830
賛助会員	1,372	1,372,000	1,431,000
団体会員	143	715,000	770,000
特別会員	185	1,245,000	1,225,000
計	25,867	8,165,402	8,250,830

○社会福祉事業資金への寄付

(単位：円)

種 別	件 数	令和3年度実績額	令和2年度実績額
忌明寄付	79	2,190,300	2,505,000
一般寄付	21	1,220,264	2,836,940
指定寄付	1	47,500	595,100
物品寄付	18		
計	119	3,458,064	5,937,040

(2) 共同募金運動への協力

長崎県共同募金会が行う募金運動の内、佐世保市分の受入に協力した。

○赤い羽根共同募金（令和3年10月1日～令和3年12月31日）

※募金総額の46%が、次年度の地域福祉活動事業へ配分される。

(単位：円)

区 分	目 標 額	令和3年度実績額	令和2年度実績額
戸別募金	25,376,000	12,076,288	13,397,112
法人募金	2,000,000	1,624,000	12,471,000
街頭募金	300,000	27,935	24,135
職域募金	2,000,000	2,009,279	1,717,908
学校募金	2,000,000	1,820,724	1,763,776
特別募金	5,000,000	1,673,151	1,703,448
計	36,676,000	19,231,377	31,077,379

○歳末たすけあい募金（令和3年12月1日～令和3年12月25日）

※配分金については、福祉見舞金等配付事業に活用した。(単位：円)

区 分	目 標 額	令和3年度実績額	令和2年度実績額
戸別募金	5,400,000	4,104,686	4,111,390
一般募金	100,000	496,282	450,678
法人募金	100,000	5,000	5,000
計	5,600,000	4,605,968	4,567,068

(3) 要介護認定調査事業

長崎県から市町事務受託法人の指定を受け、佐世保市からの委託で、介護認定の申請をされた後に申請者を訪問し、日常生活動作など要介護認定に必要な調査事務を行った。

・調査員 22 名 ・調査件数 5,251 件（令和4年3月末現在）

(4) 長崎国際大学と連携協力に関する協定締結

相互が所有する知的・人的・物的資源を有効に活用することで、地域社会における福祉人材の育成・本市における地域福祉の益々の発展に寄与していくことを目的に、長崎国際大学と連携協力に関する協定を締結した。

・令和3年12月1日 協定締結式

介護事業所報告書

介護保険制度や障害者総合支援法に沿って、利用者の自己選択・自己決定を尊重し、介護者や関係機関との連携を図り、きめ細やかな在宅サービスの提供を行った。

新型コロナウイルスの感染リスクがある中、感染対策を徹底し利用者及び職員の安全を最大限に確保し在宅サービスの提供を行った。また、ICT 導入によるテレワークや TV 会議を活用し事業継続に努めた。

また、令和 4 年 4 月からの統合に向け、江迎・鹿町介護事業所の改修工事が完了した。

1 職 員 95 名（正規 47 名・嘱託 48 名） パート職員 131 名 合計 226 名

2 居宅介護支援事業

新型コロナウイルス感染症対策に則り、利用者と直接会う機会を減らし、居宅介護支援計画の作成・相談・サービス調整等を行った。また、医療・保健・福祉サービスを総合的・効果的に利用できるよう提案し、住み慣れた地域で自立した生活が続けられるよう支援をした。

実績	佐世保	吉井	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R2 延人数	981	1,341	605	1,569	1,903	6,399
R3 延人数	1,010	1,457	578	1,595	1,733	6,373

3 訪問介護事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、訪問スタッフの体調管理及び利用者の体調や行動を把握した上で家庭を訪問し、食事・入浴・排せつ等の介助（身体介助）や、掃除・洗濯・調理等日常生活の支援・相談・助言（生活援助）のサービスを実施した。

実績	佐世保	吉井・世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R2 延人数	10,998	7,079	2,989	5,033	8,900	34,999
R3 延人数	10,312	7,344	2,471	5,224	7,543	32,894

4 居宅介護事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービスのうち、訪問介護事業所のホームヘルパーが障がい者に対し、在宅で介護や家事等の日常生活の援助を行う居宅介護サービスを実施した。

実績	佐世保	吉井・世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R2 延人数	1,083	341	129	49	2,008	3,610
R3 延人数	1,106	495	155	86	2,100	3,942

5 訪問入浴介護事業

・障害者訪問入浴サービス事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、移動入浴車で家庭を訪問し、居室で簡易浴槽による入浴サービスを実施した。

実績	小佐々
R2 延人数	347
R3 延人数	437

実績	小佐々
R2 延人数	237
R3 延人数	265

6 通所介護事業

デイサービスでは、入浴・食事の提供・機能訓練等を行う日帰りのサービスを実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、利用時間の短縮や少人数で実施する等の対応を行った。

また、宇久慈恵苑通所介護事業所については、職員確保が困難であることから、行政と協議の上、令和3年4月から休止した。

実績	吉井	世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R2 利用定員	35	30	35	55	55	
R3 利用定員	35	30	35	55	55	
R2 延人数	6,932	5,919	10,596	13,077	13,196	49,720
R3 延人数	6,803	5,210	9,974	11,973	11,544	45,504

7 認知症対応型共同生活介護事業（グループホームよしいの郷）

認知症の要介護者等が、介護スタッフとともに食事づくり、掃除、洗濯等をしながら少人数で共同生活を行う事業を実施した。スタッフの感染症対策を徹底し、利用者への外部からの面会制限を行った。

実績	吉井（利用定員 18 名）		
R2 延人数	6,480	入居率	98.6%
R3 延人数	6,343	入居率	96.5%

8 移動支援事業（市受託事業）

一人で外出することが難しい障がい者（児）に対して外出のための支援を行う事業であるが、新型コロナウイルス感染症対策による外出制限等の影響もあり、利用回数が減少した。

実績	佐世保	吉井・世知原	江迎・鹿町	合計
R2 延人数	56	5	47	108
R3 延人数	6	4	36	46

※主な取組

- 1 新型コロナウイルス感染症が流行する中、介護現場における感染症対策を実施ながら業務継続を行った。
- 2 地域包括支援センターその他の関係機関と連携し、高齢者に応じた運動機能向上・口腔機能向上プログラムを実施する包括的支援事業を実施した。
- 3 ICT 導入を進め、感染症対策強化及びテレワークや TV 会議等を活用した web 研修に参加する等して事業継続に務めた。
- 4 江迎と鹿町の支所及び介護事業所統合に向け、建物の改修工事及び駐車場整備を行った。

勝富授産場事業報告

社会福祉法による授産施設の趣旨に基づき、低所得者や障がい者等を対象に、作業の提供をとおして社会生活の能力を高めるとともに、知識や技能習得の向上を図った。

コロナ感染症対策として、8/20～9/24の間、利用時間を10:00～15:00までの4時間に短縮し運営した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、縫製部は、企業からの受注が大きく減り売上金額が減少した。

1 職 員

場長 1 名、指導員 3 名（縫製部 2、軽作業部 1）臨時職員 1 名、パート職員 1 名
計 6 名

2 利 用 者 （定員 20 名） （3月末現在）

区 分	年 度	男 性	女 性	合 計
縫 製 部	R 2 年度	3 名	5 名	8 名
	R 3 年度	2 名	4 名	6 名
軽作業部	R 2 年度	3 名	6 名	9 名
	R 3 年度	2 名	6 名	8 名
合 計	R 2 年度	6 名	11 名	17 名
	R 3 年度	4 名	10 名	14 名

・利用者の内訳

① 生活保護 6 名 ②みなし保護 5 名 ③基準該当就労継続B型 3 名

3 作業内容

- ・縫 製 部 紳士服、婦人服の補正及び作業着等の縫製
- ・軽作業部 紙箱等の組立、割箸の袋入れ、シール貼り他簡易作業

4 受注件数及び金額

区 分	年 度	件 数	金 額
縫 製 部	R 2 年度	1,087 件	3,021,125 円
	R 3 年度	1,116 件	2,561,293 円
軽作業部	R 2 年度	458 件	999,966 円
	R 3 年度	464 件	1,266,884 円
合 計	R 2 年度	1,545 件	4,021,091 円
	R 3 年度	1,580 件	3,828,177 円

5 工 賃

区 分	年 度	支 払 総 額	1 人平均月額
縫 製 部	R 2 年度	1,900,614 円	21,846 円
	R 3 年度	1,432,166 円	17,024 円
軽作業部	R 2 年度	980,013 円	8,522 円
	R 3 年度	1,035,664 円	11,099 円

6 月平均出勤日数

- ・縫製部 18.5 日
- ・軽作業部 18 日 （平均作業日数 20 日）

須佐保育園事業報告

児童福祉の理念に立って、よりよい保育環境を整え、それぞれの年齢、能力、個性に応じた養護と教育が一体となった保育を進め、健やかな身体、豊かな情操、正しい社会性、道徳性の芽生えを培い、心身ともに健全な人間形成の基礎を養い感性を高めるよう努めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響がある中、子どもの健康と健全な発育を守るため感染対策を徹底し保育活動を行った。

1 保育園の運営

(1)定 員 70名 月平均73名(前年度 月平均79名 年間949名)

年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)

月 園 児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳 児	4	7	8	9	9	9	11	12	12	12	14	14	121
1～2歳児	25	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	285
3歳児	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	124
4歳以上児	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	28	351
計	70	72	73	74	72	72	74	75	74	74	76	75	881

(2)職 員

園 長 1名 主任保育士 1名 副主任保育士 1名

保育士 12名(常勤10・パート2) 調理員 5名(常勤3・パート2) 用務員 1名

計 21名(うち1名育休)

2 保育内容

(1)保育目標

・じょうぶなからだ ・つよいところ ・おもいやりのところ ・つくりだすちから
4つの目標を柱に、いろいろな経験の中で生きる力と豊かな心が育つように努めた。

(2)開所時間 午前7:00～午後7:00

(3)クラス編成

0歳児クラス(つくし組) 1歳児クラス(すみれ組) 2歳児クラス(なのはな組)
3歳児クラス(もも組) 4～5歳児クラス(さくら組)

(4)行 事

4月	入園対面式
5月	園外保育(桜組)
6月	運動会 芋さし(柚木) 交通安全教室 歯科検診 児童内科健診
7月	夏祭り(園児のみ) プール開き
8月	プール納め 実習生受入
9月	お店屋さんごっこ
10月	芋掘り(柚木)

11月	七五三参拝
12月	焼芋パーティ 交通安全教室 消防訓練 クリスマス会
1月	郵便やさんごっこ
2月	豆まき
3月	ひな祭り会 卒園式 縄跳び大会

避難訓練(月1回実施) 誕生会(月末水曜日) 体育教室(月2回金曜日 4～5歳児)

珠算教室(火曜日・5歳児) 習字教室(木曜日・5歳児)

(5)特別保育事業

- ・延長保育推進事業(年間)1,166名
- ・世代間交流等事業(自主)
「元気にしてる?会」コロナ禍により未実施(高校1年4月・小学1年7月)
- ・園庭開放 育児相談(自主)

3 給 食

- ・食材の味を活かし薄味を基本とし、新鮮な旬の食材を使い、季節感のあるバランスの取れた献立を工夫した。
- ・アレルギー、体調の悪い子どもには、細心の注意をはらい調理工夫した。
- ・食事のマナーを知らせ、友達や保育士とおいしく楽しく給食がとれるようにした。
- ・0歳児…家庭での離乳食の進み具合を聞き、連携を取りながら行っていた。
1～2歳児…野菜を少しずつ大きめに切り、歯ごたえのある素材を取り入れた。
3歳以上児…副食のみ給食実施。クッキング保育を通して、食材や調理器具の使い方、料理の楽しさを知らせ、食育につなげた。

4 健康管理

朝の受け入れの際、丁寧に視診を行い、一日健康で楽しく遊べるように配慮した。

(1)園 児

- ・内科健診(池田医師 6月実施) ※コロナ禍により1回実施可の通達による
- ・歯科検診(平野医師 6月実施) ※コロナ禍により1回実施可の通達による
- ・尿検査 (3歳以上児 年2回実施)
- ・フッ化物洗口(4.5歳児 週5日実施)

(2)職 員

- ・定期健康診断(年1回実施)
- ・検 便 (月1回実施)

5 職員研修・会議

(1)外部研修

- ・園長会 保育士研修会 他 ※コロナ禍により中止、リモート会議等

(2)園内研修

- ・給食検討会(月1回)メニュー等の反省を行い、より良い献立に努めた。
- ・研 修 (月1回)研修会の報告を行い、知識を深め合い保育技術の向上に努めた。
- ・会 議 (月2回)保育内容、行事の検討等を行い、保育内容の充実に努めた。

吉井北保育園事業報告

児童福祉の理念に立って、よりよい保育環境を整え、それぞれの年齢、能力、個性に応じた養護と教育が一体となった保育を進め、健やかな身体、豊かな情操、正しい社会性、道徳性の芽生えを培い、心身ともに健全な人間形成の基礎を養い感性を高めるように努めた。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、保育園の活動が制限され保育内容も多様化せざるをえない状況だった。私達は、保育の原点に基づき温かく丁寧な保育に心がけ子どもの発達の援助を行い、よりよい保育環境を整えるようにした。

1 保育園の運営

- (1) 定員 60名 月平均 41.5名(前年度 月平均45.3名 年間544)名)
年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)

月 園児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳児	0	0	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	18
1～2歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
3歳児	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107
4歳以上児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19	217
計	39	40	41	41	41	41	41	41	43	43	43	44	498

(2) 職員

園長 1名 主任保育士 1名 保育士 13名(常勤5・パート8)

パート看護師 2名 調理員 3名(常勤2・パート1)

計 20名

2 保育内容

(1) 保育目標

子どもたちは、未来に向けてのあらゆる可能性をそのうちに秘めている。日々の保育の中で伸びゆく芽を見つけ、愛情あふれる環境の中で大切に育てていくことを目標とし保育に努めた。

- ・のびのびと遊べる子ども・友達となかよくできる子ども
- ・自然に親しみ、お年寄りやさしくふれあえる子ども

(2) 開所時間 午前7:00～午後7:00

(3) クラス編成

0歳児クラス(たんぽぽ組)

1歳児クラス(すみれ組)

2・3歳児クラス(もも・うめ組)

4・5歳児クラス(さくら・ひまわり組)

(4) 行事

4月	入園対面式 進級式
5月	歯科検診 歓迎遠足(園児のみ) 尿検査(3・4・5歳児)
6月	運動会 交通安全教室 芋さし 内科健診
7月	七夕集会 プール開き 交通安全教室
8月	プール納め 夏祭り
9月	防災訓練(非常食体験) 交通安全教室 クッキング デイサービス訪問

10月	尿検査（3・4・5歳児） 交通安全教室 保幼小交流会（吉井北小にて） 内科健診 消防総合訓練
11月	発表会 七五三参拝 芋ほり 年長児バス遠足 ふれあい発表会（さくらプレイス）
12月	保育参観（2・3・4・5歳児のみ各週） クリスマス集会 クッキング 交通安全教室
1月	消防団による放水見学 凧あげ大会 郵便屋さんごっこ お店屋さんごっこ
2月	交通安全教室 節分集会 縄跳び大会 防犯訓練（江迎警察署指導）
3月	ひな祭り集会 卒園式 お別れバス遠足 お別れ会 移行式 修了式

〔年間〕 たのしいリズム（外部指導 年24回） 和太鼓（外部指導年24回）

防犯指導（江迎警察署 年1回） 体育教室（月1回）

〔毎月〕 誕生会 身体測定 避難訓練

（5）特別保育事業

- ・延長保育促進事業（延長保育事業）…年間延べ人数 753人
- ・世代間交流事業…単独事業（年5回実施→1回実施 延べ30人）
- ・異年齢児交流事業…単独事業（年1回実施 0人 新型コロナウイルスの為に中止）
- ・一時預かり事業…単独事業（年間延べ人数 26人 佐世保市・広域）
- ・園庭開放…単独事業（利用者6名）

3 給 食

友だちや保育士、更に調理員などと一緒に食事をする事で人とのかかわりを持って、楽しく食べることにより、料理をつくる人にも関心を持たせた。また、季節の野菜を育てたり、収穫した野菜等で調理をしたりすることで食物に関心を持ち、できるだけ多くの食材や種類の食べ物や料理を味わえるよう工夫した。また、新型コロナウイルス感染症により、パーティーションを購入し、飛沫防止、安全面には特に留意し、国内産の食材を使用するように努め、特に離乳食やアレルギーを持った園児に対しての配慮を心掛けた。

4 健康管理

乳幼児の安全を守り、体調不良の子どもへの対応など健康面・食事面における対策に配慮し、健やかな成長を推進するように心がけた。

（1）園児

- ・内科健診（松瀬診療所…6月・10月実施）・尿検査（3歳以上児 年2回実施）
- ・歯科検診（法師山歯科医院…5月実施）・フッ化物洗口（4・5歳児 週6日実施）

（2）職員

- ・定期健康診断（年1回）
- ・検便…全職員実施（毎月）

5 職員研修・会議

（1）外部研修

- ・園長会 主任保育士研修会 給食部会 保育士研修会 キャリアアップ研修会他

（2）園内研修・会議

- ・職員会（月1回以上）行事等の内容及びケース会議を行い保育内容の充実を図った。
- ・給食検討会（月1回）改善点を反映させ、よりよい給食を提供できるように努めた。
- ・研修報告会・会議（随時）報告会・勉強会を重ねることで、職員各自の意識向上を図った。また、自分の保育のやり方を振り返り、反省し、助言を受けスキルアップに繋げていった。コロナについても、新しい情報が入ると、保護者に広報した。

児童センター事業報告

児童福祉法に基づき、児童に健全な遊びを与えその健康を増進し、情操を豊かにするとともに、地域における健全育成活動の拠点とし学校、児童クラブ、子ども会及び留守家庭児童保護者等との連携を図りながら様々な活動を展開した。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、利用者の減少や事業規模の縮小などの影響を受けながらも感染症の予防に努め、各施設で工夫しながら活動に取り組んだ。

なお、令和3年度で2年間の指定管理期間が終了しましたが、令和4年度から3年間、引き続き指定管理者の指定を受けることとなりました。

1 職 員

館長 9名 児童厚生員 7名 嘱託児童厚生員 12名
パート職員 21名 計 49名

2 利用者状況

区 分	稲 荷	大 野	黒 髪	相 浦	早 岐	春 日	広 田	山 澄	宇 久	合 計
開 館 日 数	223	223	223	223	223	223	223	223	223	2,007
利 用 者 総 数	3,812	6,065	8,040	4,379	4,300	4,391	8,222	2,684	6,226	48,119
一 日 平 均	17.1	27.2	36.1	19.6	19.3	19.7	36.9	12.0	27.9	24.0
登校日	最 高	47	79	63	23	63	36	45	18	36
	最 低	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休校日	最 高	72	81	80	71	98	48	66	39	60
	最 低	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利 用 届 数	173	160	304	296	259	335	300	205	61	2,093
幼 児 利 用 者 数	386	1,362	255	766	110	1,050	1,817	313	874	6,933
大 人 利 用 者 数	154	772	285	789	160	916	1,716	765	1,781	7,338
一 般 児 童 利 用 数	3,272	3,931	7,348	2,824	4,030	2,425	4,675	1,606	798	30,909
留守家庭児童利 用 数	0	0	152	0	0	0	14	0	2,773	2,939
留守家庭児童利 用 届 登 録 者	0	0	7	0	2	0	2	0	21	32

3 事業内容

(1) 単館事業

児童センター利用児童の参加による運動遊びや体験学習などを通して、子どもの個別的、集団的援助活動を推進し、自主性、社会性、創造性を健やかに育てることを目的に次の事業を実施した。

① 年間事業

各児童センターの自由な企画で年間を通して、季節行事、工作、スポーツ、音楽な

どを地域のニーズや子ども達の状況に合わせた内容で提供し、また、子育て支援のため週5回の特別開館を実施した。さらに、ホームページや月1回発行の児童センターだよりにより活動状況やイベントなどについて情報発信している。

本年度もコロナ感染防止のため事業を中止したり、規模を縮小したりして実施するなど年度当初の計画通りには実施できない館が多かった。

② 自然体験活動事業

花や野菜を育てたり、海や川に出向き貝を拾ったり生物の観察をするなど、野外での活動を行い、子ども達の豊かな情操を育む支援を実施した。

③ 子どもボランティア育成支援事業

地域を巡回してごみ拾い活動、高齢者施設を訪問し手作りの品物をプレゼントする活動あるいはイベントスタッフの一員として活動することにより、児童の自発的な意志に基づき他人や社会に貢献するというボランティア精神の育成を図り、その活動を支援した。

④ 児童健全育成相談支援事業

養護教育の専門家を招いて児童及び保護者からの相談に応じ、また関係機関と連携を図り個別または集団への指導及び支援を実施した。

⑤ 年長児童等来館促進事業

中高生や大学生にイベントへの参加協力を依頼し、来館促進に繋がるような事業を実施した。

(2) 青空児童館

児童の健全育成を推進する団体からの要望を積極的に受け入れ、遊びのプログラムを提供すると共に、市内イベントへの参加等の広報活動を通して、地域交流を図り、地域支援の中心核として、児童センターを位置づけていくことを目的として準備を行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、職員派遣、広報活動の一部を中止した。個人・団体を対象にした遊具貸出については遊具を補充し、各児童センターにおいて積極的に取り組み、今後の活動へと繋げた。

① 職員派遣： なし

② 事前指導： 1件

③ 遊具貸出： 個人167件 団体6件

④ 市内イベント参加：なし

佐世保市保育会主催「親子であそぼ！」等の催し物が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となり参加できなかった。

(3) ふれあい交流事業

児童センターが、地域社会の中で児童健全育成活動の拠点としての役割を担っていることを、広く市民に知ってもらう機会のこととする。また、児童が多くの人達とふれあうことで、責任感・充実感および満足感を味わい、豊かな心を育てるとともに、地域・保護者・関係団体とのネットワークの強化を図ることを目的としている。

例年、実施している「羽ばたけ児童センターまつり」「赤い羽根共同募金街頭募金活動」については、合同開催から分散開催とし規模縮小での開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染の収束がみられないことから、令和2年度に続き中止した。

(4) ドッジボール交流大会

令和3年度のドッジボール大会は、『新型コロナウイルス感染症』のワクチン接種が始まり、感染拡大に歯止めがかかることを見込み、感染防止対策を強化し無観客・職員のみによる運営で交流を目的に短時間での開催について話し合いを重ねたが、8月後半からの第5波の到来により、大会に関わる全員の感染防止を第一に、安全に大会を開催することは難しいと判断し、やむなく中止した。

(5) 第24回「させぼわんぱくひろば」

子育て支援団体として実行委員会に参加し、子ども達が楽しめる遊びを提供することで児童センターとして準備を行ったが、新型コロナウイルス感染症の感染の拡大に伴い、実行委員会の決定により、中止した。児童センターは、実行委員会事務局として準備を行った。

老人福祉センターやすらぎ荘事業報告

高齢者の皆さんが、施設の利用をとおして相互の親睦と心豊かな人間関係を育むとともに、健康相談等による健康管理や趣味、レクリエーション等の各種活動に積極的に参加することで、健康で明るく心豊かな生活の向上に資するよう努めた。

令和4年1月から休館日、開館時間の見直しとともに、利用者がいつまでも笑顔で元気に過ごせるように、「健康増進」に重点を移した新たなサービスに取り組んだ。送迎バスについても、やすらぎ荘⇄佐世保駅間を午前3回、午後2回運行に変更するなど利便性の向上を図るなど試行的に実施した。

また、施設整備では、2階大広間を健康増進のスペースとして活用するため、90畳のうち40畳を畳からフローリングに取替え工事を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年6月8日から7月13日まで、令和3年8月7日から9月24日まで、令和4年1月21日から3月21日まで臨時休館とした。

1 職 員

所 長 1 事務員 1 管理員 2 パート職員 1 計 5名

2 利用者数

(1) 年度別

年度	利用者数 (名)	1日平均 (名)	開館日数 (日)	1日の利用者数	
				最高(名)	最低(名)
1	13,571	51	264	85	8
2	9,401	44	214	79	2
3	7,379	42	175	73	5

(2) 利用券別

(単位：名)

年度	総 数	回数券	老人券	一般券	学生券	団 体	無 料
1	13,571	11,912	1,329	139	2	97	92
2	9,401	8,681	654	66	0	0	0
3	7,379	6,810	509	52	8	0	0

3 利用料収入

(単位：円)

年度	利 用 料	1 日 平 均
1	1,716,880	6,503
2	1,177,800	5,504
3	922,220	5,270

4 健康相談者数

(単位：名)

年度	回数	総 数	1 回 平 均
1	6	63	11
2	3	27	9
3	5	61	12

※令和 4 年 2 月は、新型コロナウイルス感染防止対策の休館等により健康相談を中止した。

5 送迎バス利用者数 (単位：名)

年度	利 用 者 数
1	5,185
2	2,625
3	2,024

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、乗車人数を制限し、運行した。
(定員28名⇒17名)

6 講座及びクラブ活動

講 座 名	部員数(名)	開催回数
表 装	17	週1回
茶 道	4	週1回
合 唱	6	週1回
カラオケ	9	週1回
書 道	12	週1回
パソコン	17	週1回
卓 球	23	週2回
太極拳	5	週1回
脳トレそろばん	1	週1回
ヨガセビ-	29	週2回
合 計	123	

ク ラ ブ 名	部員数(名)	開催回数
手 芸	11	週1回
陶 芸	7	週1回
軽音楽	9	週1回
ソーイング	16	週2回
舞 踊	5	週1回
将 棋	15	毎 日
囲 碁	10	週2回
音友会	6	週2回
英会話	6	週1回
声 楽	2	月2回
謡 曲	9	月1回
合 計	96	

7 各種行事等

(1) 避難訓練

11月 10日

例年は3月にも避難訓練を実施しているが、休館中であったため中止

※新型コロナ感染防止対策のため、公開講座、演芸大会等主催行事は中止した。

老人福祉センターあたご荘事業報告

高齢者の皆さんが、施設の利用をとおして相互の親睦と心豊かな人間関係を育むとともに、健康相談等による健康管理、浴場、趣味及びレクリエーションの提供等の便宜を図り、健康で明るく心豊かな生活の向上に資するよう努めた。

令和4年1月から休館日、開館時間の見直しとともに、利用者がいつまでも笑顔で元気に過ごせるように、「健康増進」に重点を移した新たなサービスの導入を検討した。

また、施設整備では、小部屋の木製建具ガラス取替工事、気中開閉器取替工事等を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年6月8日から7月13日まで、令和3年8月7日から9月24日まで、令和4年1月21日から3月21日まで臨時休館とした。

1 職 員

所 長1名 事務員1名 管理員1名 パート職員3名 計 6名

2 利用者数

(1) 年度別

年度	利用者数 (名)	1日平均 (名)	開館日数 (日)	1日の利用者数	
				最高(名)	最低(名)
1	20,265	76	266	165	35
2	11,500	54	213	85	11
3	8,905	51	176	84	11

(2) 利用券別

(単位：名)

年度	総 数	回数券	老人券	一般券	学生券	団 体	無 料
1	20,265	16,758	2,609	549	36	313	0
2	11,500	9,969	1,147	337	47	0	0
3	8,905	7,351	1,209	269	76	0	0

3 利用料収入

(単位：円)

年度	利 用 料	1日 平均
1	2,596,540	9,761
2	1,435,830	6,741
3	1,127,780	6,408

4 健康・歯科相談者数

(単位：名)

年度	回数	健康相談者数	1 回 平 均	歯科相談者数
1	6	63	11	8
2	4	46	12	13
3	2	15	8	9

※令和3年7月と9月、令和4年1月と3月は、新型コロナウイルス感染防止対策の休館等により健康相談を中止した。

5 クラブ活動

ク ラ ブ 名	部 員 数 (名)	開 催 回 数
囲碁未来教室	8	週1回
松下囲碁クラブ	4	週1回
中央研究会(囲碁)	5	週1回
爛柯(囲碁)	4	月2回
光明習塾(筆ペン)	12	月3回
吉元舞踊クラブ	2	週1回
将棋クラブ	12	週5回
さくら会	4	月2回
手芸教室	7	月3回
KARAOKE 友の会	11	月3回
合 計	69名	

6 各種行事等

(1) 避難訓練

11月11日

(2) 避難訓練

3月 4日

※ 新型コロナ感染防止対策のため、団体利用、主催行事等は中止した。

以 上

宇久高齢者生活福祉センター慈恵苑事業報告書

入居者に対して介護支援機能・居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるように支援するとともに、福祉の増進と安定を図った。

- 1 職 員 施設長（主任）1名 生活援助員2名（うち代替1名） 管理人2名
- 2 居 住 者 令和3年度末15名 （令和2年度末14名）
- 3 職員目標
 - ①入居者の人格を尊重する。
 - ②入居者の能力に応じた自立支援を行う。
 - ③ご家族と連携を図り適切な支援を行う。
 - ④地域や入居者間の交流支援に心がける。
- 4 会 議

毎日（朝）	宿直との引継ぎ、業務報告（必要時ケース会議） 健康維持（ラジオ体操）
毎月（月初め）	社協宇久支所の各事業との業務連絡会議
毎月（月末）	居住者の状態を全員で把握し、対応等について打合せ
年（1～2回）	家族と行政・社協とによる家族会議（書類配布）
年（2回）	居住者と職員による苑内会議
年（2回）	運営推進会議（内1回は書類配布にて実施）
- 5 日 課 16時00分

リハビリ～ラジオ体操・歌
趣味～折り紙・読書・四季の行事
活動～庭の草取り・行事の準備等
入浴（週3回 火・木・土）他、シャワーも必要時
いきいき百歳体操（週1回）

6 定期行事等

	行 事		行 事
4月	花見	10月	祭り見学（中止）苑内レクリエーション
5月	母の日	11月	文化祭、産業まつり見学（中止）
6月	父の日	12月	クリスマス忘年会
7月	七夕交流会	1月	新年会
8月	夏祭り（中止）苑内レクリエーション	2月	節分
9月	敬老の集い	3月	ひな祭り（輪投げ）

- ・誕生日（当日歌を歌いプレゼント渡す）
- ・清掃の日（月1回） 通常より丁寧に居室の清掃。希望により職員も支援
- ・防災の日（年2回） 居住者のみ避難訓練・近隣施設との連携確認
- ・居室訪問（月1回） 看護師と生活援助員で健康チェック及び生活衛生面への助言
- ・新聞「ゆかり」の発行（年3回） 家族への情報提供

高齢者生活福祉センター模の木庵事業報告書

入居者に対して介護支援機能・居住機能及び交流機能を総合的に提供する事により、安心して健康で明るい生活を送れるように支援するとともに、福祉の推進と安定を図った。

佐世保市の指定管理が終了することに伴い、令和4年3月31日をもって事業を廃止した。

- 1 職 員 施設長兼生活援助員（介護兼務）1名・生活援助員2名
宿直員3名（シルバー人材センター委託）
- 2 居 住 者 令和2年度末5名 令和3年度末6名
- 3 職員目標 ①入居者の人格を尊重する。
②入居者の能力に応じた自立支援を行う。
③ご家族と連携を図り適切な支援を行う。
④地域や入居者間の交流支援に心がける。
⑤コロナ感染予防(居室外でのマスク着用・検温3回・体調管理等)
- 4 会 議 毎朝・夕 宿直員との申し送り
毎週・月曜日 業務報告（必要時ケース会議）
年間（2回） 運営推進会議（11月・3月）
毎月 入居者定例会
- 5 日 課 8時00分 自動血圧・脈拍測定（変動時、看護師測定、健康相談）
9時30分 ラジオ体操(第1・第2) 梅干し体操 脳トレーニング トランプ
折り紙 レクリエーションゲーム等、感染予防の為、縮小・中止
13時30分 入浴（週3回 月・水・金）他、必要時シャワー浴等
16時00分 全員での除菌清掃

6 定期行事等

	行 事	点検・訓練等		行 事	点検・訓練等
4月	・入居者定例会(毎月) ・模の木庵駐車場で桜の花見	・電気メーター点検 (九州電気管理技術者協会) ・AEDバッテリー確認	10月	・老福荘から頂いた南瓜のムースでハロウィン	・昼間消防避難訓練
5月	・収入申告個人面談 ・コロナワクチン接種	・施設に列ラッパ	11月	・第一回運営推進会議 ・インフルエンザ予防接種	・ナースコール対応訓練
6月		・入居者収入申告 ・ナースコール対応訓練 ・消防設備点検(株)ツテ	12月	・クリスマス食事会	・防災佐世保市広報無線原 子力防災訓練実施案内入 居者と共有
7月	・七夕飾りつけ		1月	・正月祝い膳会食	・消防設備点(株)ツテ
8月			2月	・節分お菓子配	・ナースコール対応訓練
9月	・敬老会(記念品授与)	・電気点検(停電作業) (九州電気管理技術者協会)	3月	・第二回運営推進会議 (書面会議) ・ひなまつり	・非常用照明点検 防火設備点検 (川尻一級建築士事務所)

・コロナ感染防止の為、行事・訓練など、縮小・中止しています。

宇久地域包括支援センター事業報告

宇久地域に暮らす高齢者の相談窓口として、高齢者自身の意見を尊重し、自立支援を目標に住み慣れた環境の下で、自分らしい生活を維持できるよう支援に努めた。

また、コロナ禍の中、オンラインシステムを活用し関係機関との情報共有や意見交換・研修の機会を設け、更に地域ケア個別会議により出てきた地域課題を、生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員等と連携するなど、総合相談支援体制づくりに努めた。

1 職員体制 センター長（兼）社会福祉士 1名、 主任介護支援専門員 1名
認知症地域支援推進員 1名、介護予防プランナー 1名

2 開所時間 9：00～18：00
※月曜日～土曜日

3 相談実績 I 総合相談業務実績

①分類別相談件数（延べ件数）

虐待	1
権利擁護	2
消費生活	1
介護相談	28
生活不安	79
関係事業所への不満	1
ダブルケア	0
介護保険関係	68
施設入所	21
栄養相談	0
介護予防	29
認知症	10
その他	6
合 計	246

②相談受付状況（実件数）

※受付方法

電話	87
窓口	67
訪問	63
所内	1
合 計	218

※相談者の続柄

本人	78
家族	69
地域	14
関係機関	55
その他	5
合 計	221

II 包括的・継続的なマネジメント業務

（延べ件数）

医療機関との連携	45
認知症疾患医療センターとの連携	2
民生委員との連携	8
関係機関との連携	58
その他会議	65
地域活動出席	43
合 計	221

III 指定介護予防支援業務

予防給付管理数（延べ）	500
月平均	42